

【凡例】

会社名(または刻印・煉瓦の仮称)


(印影)

(大阪窯業刻印を基準にしたおよその倍率)

A:工場所在地
B:工場存続期間
C:当該刻印使用時期
D:刻印採取物件
E:該物件所在地
F:該物件建造年
G:マッチング根拠
H:特記事項
※印影文字は似たフォントで代用したものがある。 ※出典略記は以下の通り。煉瓦史:水野信太郎『日本煉瓦史の研究』、集成:同『国内煉瓦刻印集成』(中部産業遺産研究会『産業遺産研究』第8号)、『年報』:泉南市埋蔵文化財センター年報H22版


広島県

株式会社吉名煉瓦




A:広島県竹原市吉名町
B:大正14年(1925)合資会社〜昭和16年(1941)有限会社〜24年株式会社〜47年
D:空地転石
E:豊中市南桜塚16
G:文献(『集成』)
H:煉瓦製造業が筍立した広島県吉名町の中でも古い歴史と最大規模を誇った会社。最盛期には4つの工場を有し、瀬戸内海沿岸に広範囲に煉瓦を輸出した。兵庫県高砂市でも採取例あり。

三津窯業株式会社




A:広島県賀茂郡三津町4396-3
B:明治40年(1907)4月水野煉瓦製造所→大正3年廃業、大正8年(1919)3月or2年2月三津煉瓦製造所→昭和22年三津窯業(株)三津工場→昭和53年廃業
G:文献(『赤れんが物語』、集成)
H:三津町の煉瓦製造草創期に興った工場の一つを継承。大正昭和期の黄金期を牽引し、比較的後年まで操業を続けた。兵庫県高砂市別所で類似刻印の目撃例あり(写真未撮影)。

山陽煉瓦株式会社



A:広島県竹原市吉名町
B:昭和17年(1942)〜36年
D:道路側溝縁石
E:豊中市中桜塚2-23
G:文献(『集成』)
H:"Sanyo Renga Kaisha"の頭文字。岸和田煉瓦の技術者が独立開業した会社で、岸煉に製品を納入した実績もある(それ専用の刻印もあった)。成形に用いる押え板の中央に印が作り付けられていたため、平のほぼ中央に刻印が見られる(『煉瓦史』)。

**山陽煉瓦株式会社
(岸煉納入用刻印)**



A:広島県竹原市吉名町
B:昭和17年(1942)〜36年
C:昭和17年〜20年
D:南酒造場前敷石
E:高知県安芸郡安田町
G:文献(『煉瓦史』)
H:"Matsuoto Renga Kaisha"の頭文字を平全面に刻印。大正初頭の煉瓦不況の際、関西地方と瀬戸内の煉瓦製造業者がカルテルを結び生産統制を行なったことがある。この地域を商圏として煉瓦の流通があったようだ。

松本煉瓦株式会社



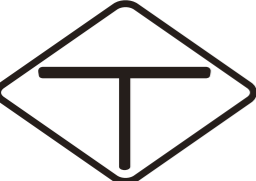
A:広島県竹原市吉名町
B:昭和13年(1938)11月〜現業
D:塀(駐車場境界)
E:大阪市大正区三軒家東1-12
G:文献(『集成』)
H:"Matsuoto Renga Kaisha"の頭文字を平全面に刻印。大正初頭の煉瓦不況の際、関西地方と瀬戸内の煉瓦製造業者がカルテルを結び生産統制を行なったことがある。この地域を商圏として煉瓦の流通があったようだ。

松本煉瓦株式会社



A:広島県竹原市吉名町
B:昭和13年(1938)11月〜現業
C:昭和20年(1945)頃
D:塀屋前転石
E:吹田市清和園町16
G:文献
H:"Matsuoto"の頭文字Mを丸で囲む。吹田市で採取の煉瓦も、港区弁天町駅付近の住宅街で敷石に使われているものも機械成形煉瓦に押されている。大阪府東淀川区三国本町、豊中市では手成形に押されたものを検出。

有限会社東亜煉瓦



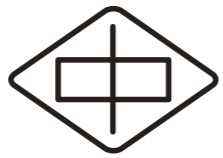
A:広島県竹原市吉名町
B:昭和16年(1941)〜40年(1965)
D:空地転石
E:大阪市西成区北津守1-2-3
G:文献
H:『集成』に東亜煉瓦の刻印として登録。大阪市此花区西九条の大阪卸売市場に隣接する住宅地でこの煉瓦が敷石に使われている。

中住煉瓦株式会社




A:広島県賀茂郡安芸津町木谷4258(東広島市安芸津町木谷)
B:昭和8年(1933)〜昭和46年12月
C:昭和42年(1967)まで
D:広島県東広島市安芸津町木谷1611個人宅
G:印影、聞き取り
H:昭和27年株式会社化。昭和28年成形機導入。昭和38年、真空式抜出機設置。化粧煉瓦も製造。販路は、阪神以西、北九州、四国各地。NZは会社名のローマ字のNakaZumiに由来。

中国煉瓦株式会社



A:広島県賀茂郡安芸津町木谷324(東広島市安芸津町木谷)
B:昭和12年(1937)〜50年頃?
D:空地転石
E:豊中市若竹町1
G:文献
H:『集成』には中国煉瓦の刻印として収録。豊中市小曾根の住宅地で採取。


中国煉瓦株式会社木谷工場



A:賀茂郡安芸津町木谷324
B:昭和12年(1937)〜55年頃?
D:広島県安芸津町木谷317転石
G:分布状況、印影
H:CKの由来はChugoku Kashinoと推定する。Kは播州地方の煉瓦に多数見ることができ、株式会社樫野の社史に中国煉瓦株式会社の設立に関与したことの記載あり。


岡山県
【耐火】

日本窯業(株)



A:和気郡伊部村大字伊部707
B:明治42年(1909)〜昭和39年頃?
C:昭和16年前後
G:社章(『耐火物年鑑』S16)
H:明治29年10月備前陶器(株)工場→明治42年日本窯業(株)備前支店。丸三耐火煉瓦の社章(屋号?)と同じだが、『耐火物年鑑』広告では日本窯業(株)がこのマークを社章として掲げている。この頃丸三は「MARUSAN」表記を用いていた。

帝国窯業(株)




A:和気郡伊部町久々井1807(S24以降久々井1801)
B:大正6年(1917)11月→昭和55年以降まで操業
G:商標(『日本登録商標大全』第10輯)
H:大正6年2月20日商標取得(第84365号)。ほぼ同型の刻印の耐火煉瓦が江之子島府庁跡で発掘されている。大正時代に増築された区画の暖炉?

九州耐火煉瓦(株)



A:和気郡伊部町浦伊部1175(S7)
B:大正6年(1917)11月or大正5年7月→昭和55年以降まで操業
G:印影、広告(『耐火物年鑑』S16)
H:『耐火物年鑑』広告より。

**西川陶業(合資)
【耐火・耐酸】**



A:和気郡伊部町
B:昭和5年(1930)3月→昭和8年頃
G:印影(実物は手書線描)
H:三石市の三石神社社務所脇の溝に使われている煉瓦で、「NICIKAWA TOGYO」と刻まれている。伊部町にあった西川陶業か。同社は耐酸煉瓦を製造していた記録があり、該煉瓦も耐酸煉瓦であるかも知れない(耐酸煉瓦によくあるつるつるした焼過煉瓦である)。

中村窯業所



A:岡山県備前市浦伊部1185-10
B:昭和8年(1933)〜昭和25年(1950)株式会社化〜昭和52年(1977)中村窯工株式会社〜平成14年(2001)テクノ窯工(株)
D:兵庫県高砂市曾根町路傍花壇
G:文献
H:株式会社テクノ窯工ホームページによれば、前身の中村窯業所がこの略号を用いていた。該煉瓦には「○+ナ」の刻印もある。

中村窯工(株)



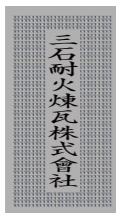
A:岡山県備前市浦伊部1185-10
B:昭和8年(1933)〜昭和25年(1950)株式会社化〜昭和52年(1977)中村窯工株式会社〜平成14年(2001)テクノ窯工(株)
H:左記中村窯業所が昭和52年に中村窯工株式会社と改名、「NYK」の略号を用いた。

“MITSUISHI”印



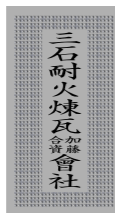
D:兵庫県高砂市曾根・大正煉瓦曾根工場跡近傍埋石、大阪江之子島庁舎跡
H:上記場所で“MITSUISHI”とだけ打刻された耐火煉瓦が見つかる。該当する可能性のある工場は非常に多く特定には至っていない。大正煉瓦跡地の埋石は目に見えて赤みがかったおり、蛭石の風化物「アカ」を使ったものと想像される。

三石耐火煉瓦(株)



A:和気郡三石村字三石868
 B:明治25年(1882)12月～現業
 G:印影、分布状況
 H:三石地方で最初に興った耐火煉瓦製造会社。現在も同地で製造を続ける。初期の製品は「三石耐火煉瓦株式会社」を縦書きで打刻、また平面にディンプルが施されている(カナの識別印?が付属することも)。

三石耐火煉瓦加藤(合資)



A:和気郡三石町333
 B:明治39年(1906)～昭和43年(1968)頃
 G:印影、分布状況
 H:明治34年4月加藤耐火煉瓦製造所→明治39頃?三石耐火煉瓦加藤合資会社。左記三石耐火煉瓦の印を流用し「加藤合資」の文字を割り注で入れた形。

三石耐火煉瓦(株)



A:和気郡三石村字三石868
 B:明治25年(1882)12月～現業
 G:社章(『日本登録商標大全』第二編)
 H:明治29年3月30日に商標取得(第7325号)。同社は今でもこのマークを社章に用いている。

三石耐火煉瓦(株)



A:和気郡三石村字三石868
 B:明治25年(1882)12月～現業
 D:洲本アルチザンスクエア敷石
 G:社章(『日本登録商標大全』)
 H:大正11年10月13日取得の商標(第4046号)。当時の飛行船ブームに乗って出願されたものらしい。実際にこの印が押された耐火煉瓦が見つかる(兵庫県洲本市旧鐘紡洲本工場:現洲本アルチザンスクエア敷石や舞鶴市赤れんが博物館蔵煉瓦)。

三石耐火煉瓦(株)



A:和気郡三石村字三石868
 B:明治25年(1882)12月～現業
 G:社名略号
 H:三石耐火煉瓦株式会社の略号MTKを刻んだ刻印。添えられた「ニドヤキ」の文字は同社のブランドのひとつ。なお現行のJISでは社名と商品名の記載のみ認められ、SKグレードの記載は認められていないが、三石耐火煉瓦(株)では製品名にSKグレードを用いているため耐火度を知ることができる。

三石高級耐火工業(株)



A:和気郡三石町三石345→和気郡三石町2577(S43)
 B:明治29年7月三石クレー耐火煉瓦(株)→T9頃休止→昭和2年4月or昭和3年4月三石高級耐火工業(株)→昭和43年頃移転?
 E:大阪府江之子島庁舎跡ほか
 H:径8cmほどの同心円状の三重丸。欠けがあるのが正式。江之子島庁舎跡よりこの刻印煉瓦に油性ペンで「三石高級耐火」と書かれたものが見つまっている(後の産業技術総合研究所時代の遺物)。

エッチェス耐火煉瓦製造所



A:和気郡三石町三石452→三石町2577(S43以降)
 B:大正5年(1916)3月エッチェス耐火煉瓦製造所→昭和6年頃三石星煉瓦製造→昭和21年頃三石星煉瓦(株)→昭和43年頃ホシレンガ(株)→昭和55年以降に三石耐火(株)
 G:商標(『日本登録商標大全』第11輯上)
 H:大正7年5月7日商標取得(第93596～93599号)。星の数でグレードを表したらしく、1個から4個まで出願されている。

ホシレンガ(株)



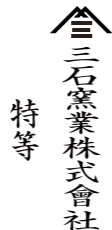
A:和気郡三石町三石452→三石町2577(S43以降)
 B:大正5年(1916)3月エッチェス耐火煉瓦製造所→昭和6年頃三石星煉瓦製造→昭和21年頃三石星煉瓦(株)→昭和43年頃ホシレンガ(株)→昭和55年以降に三石耐火(株)
 G:印影
 H:「CORROSIST」はホシレンガ(株)の商品名。同社は近年三石耐火煉瓦(株)と合併し同社ホシ工場となっている。

三石窯業(株)



A:和気郡三石町三石450-1
 B:大正5年(1916)5月→昭和55年以降に三石耐火煉瓦(株)と合併
 G:商標(『日本登録商標大全』第9輯)
 H:山三マークは大正5年10月27日に三石窯業(株)が商標取得。南海鉄道堺東駅近辺で採取された実例あり。

三石窯業(株)



A:和気郡三石町三石450-1
 B:大正5年(1916)5月→昭和55年以降に三石耐火煉瓦(株)と合併
 G:商標(『日本登録商標大全』第9輯)
 H:三石耐火煉瓦(株)の縦書印に似た刻印だが、イリヤマ+三の社章が添えられている(ディンプルなし)。

川崎窯業(株)



A:和気郡福河村寒河180
 B:昭和10年(1935)3月(合資)広瀬大阪耐火煉瓦製造所→昭和14年10月川崎窯業(株)岡山工場製造所→昭和21年頃日本鋼管(株)岡山炉材製造所→昭和37年頃品川白煉瓦(株)日生工場
 G:社章(『耐火物年鑑』S16)
 H:昭和16-18年発行の『耐火物年鑑』ではこのマークを社章として掲げる。岡山県下では広瀬大阪耐火煉瓦の工場を買収し終戦前後まで製造。

川崎窯業(株)?



A:和気郡福河村寒河180
 B:昭和10年(1935)3月(合資)広瀬大阪耐火煉瓦製造所→昭和14年10月川崎窯業(株)岡山工場製造所→昭和21年頃日本鋼管(株)岡山炉材製造所→昭和37年頃品川白煉瓦(株)日生工場
 G:社名略号
 H:戦後雑誌では菱にKYKを使用。

日産窯業(株)



A:片上工場:和気郡片上町東片上2492/石生工場:赤磐郡石生村田原上1525/鶴海工場:邑久郡鶴山村鶴海4132
 B:片上工場:大正6年(1917)4月明治窯業所→大正8年(合資)明治窯業所→昭和14年日産窯業(株)片上工場
 D:倉敷市芸文館敷地転石
 G:広告(『耐火物年鑑』S17)
 H:日産窯業(株)製造、日産化学工業販売の耐火煉瓦。

日本耐火煉瓦(株)



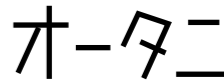
A:和気郡片上町
 B:片上工場:大正5年(1916)12月→大正14年頃
 G:商標・社章(『日本登録商標大全』第11輯上)

川崎炉材(株)



A:三石工場:和気郡三石町三石85
 岡山県備前市伊部936
 B:大正5年(1916)4月Ⓞ三石耐火煉瓦製造所→昭和3年頃太田耐火煉瓦(株)→昭和21年頃高木耐火煉瓦(合資)→昭和22年頃高野窯業(資)→昭和28年頃川崎炉材(株)三石工場→近隣他所に移転?
 G:印影
 H:戦後に各地の工場を傘下に入れKAWAROブランドの耐火煉瓦を製造。県下には他に三石東工場、三石西工場、児島工場があった。

大谷炉材

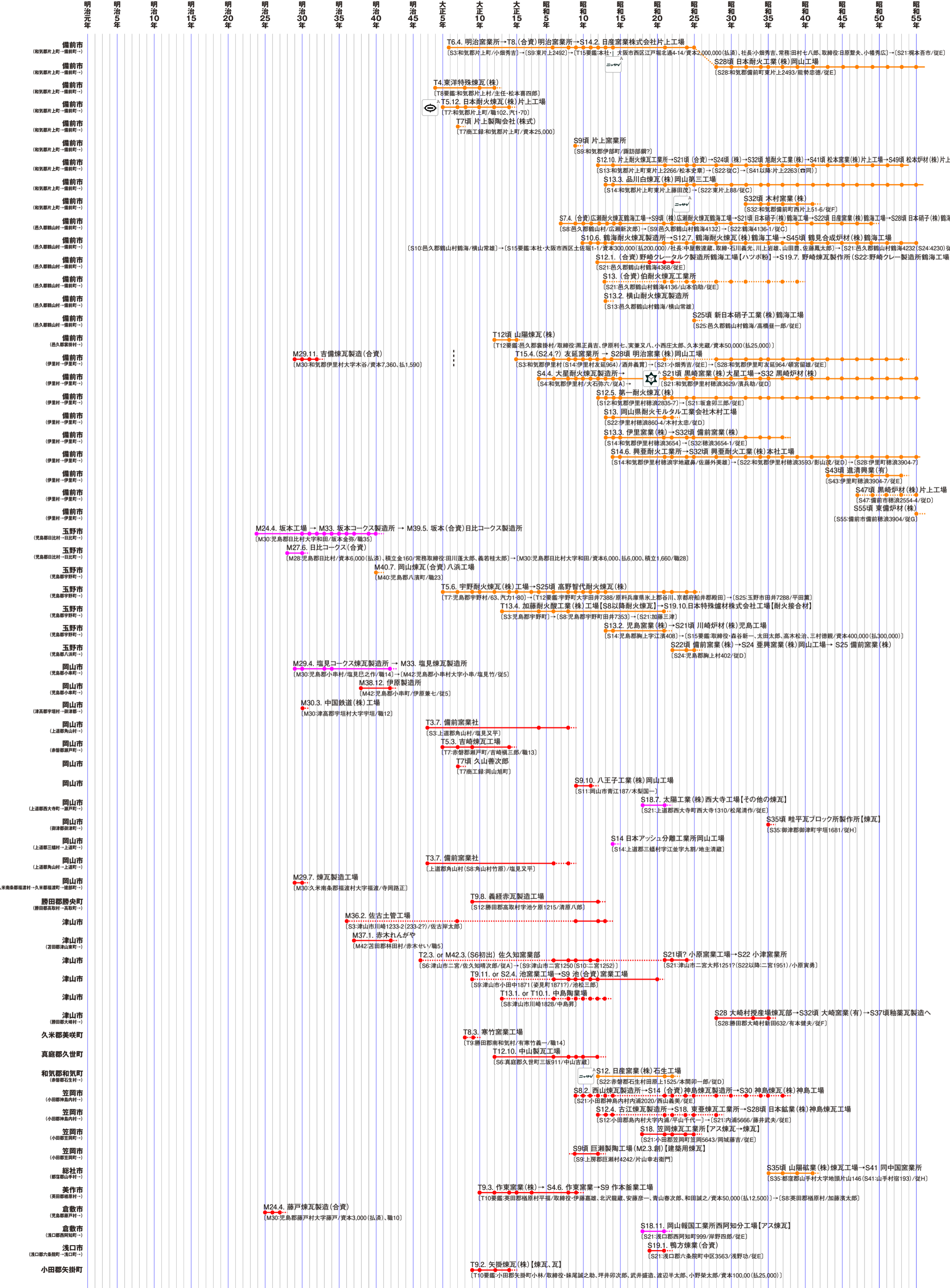


A:岡山県備前市伊部936
 B:中国炉材(株)→昭和40年(1965)山伯耐火煉瓦を合併し大谷炉材(株)→平成4年(1992)(株)合同セラミックス
 D:友田神経内科建物
 E:兵庫県高砂市伊保港町2丁目8-2
 G:印影
 H:カタカナで「オータニ」とあり、備前市伊部の大谷炉材の製品と考えられる。同医院には他にも多数種類の耐火煉瓦が外装に用いられており興味深い。

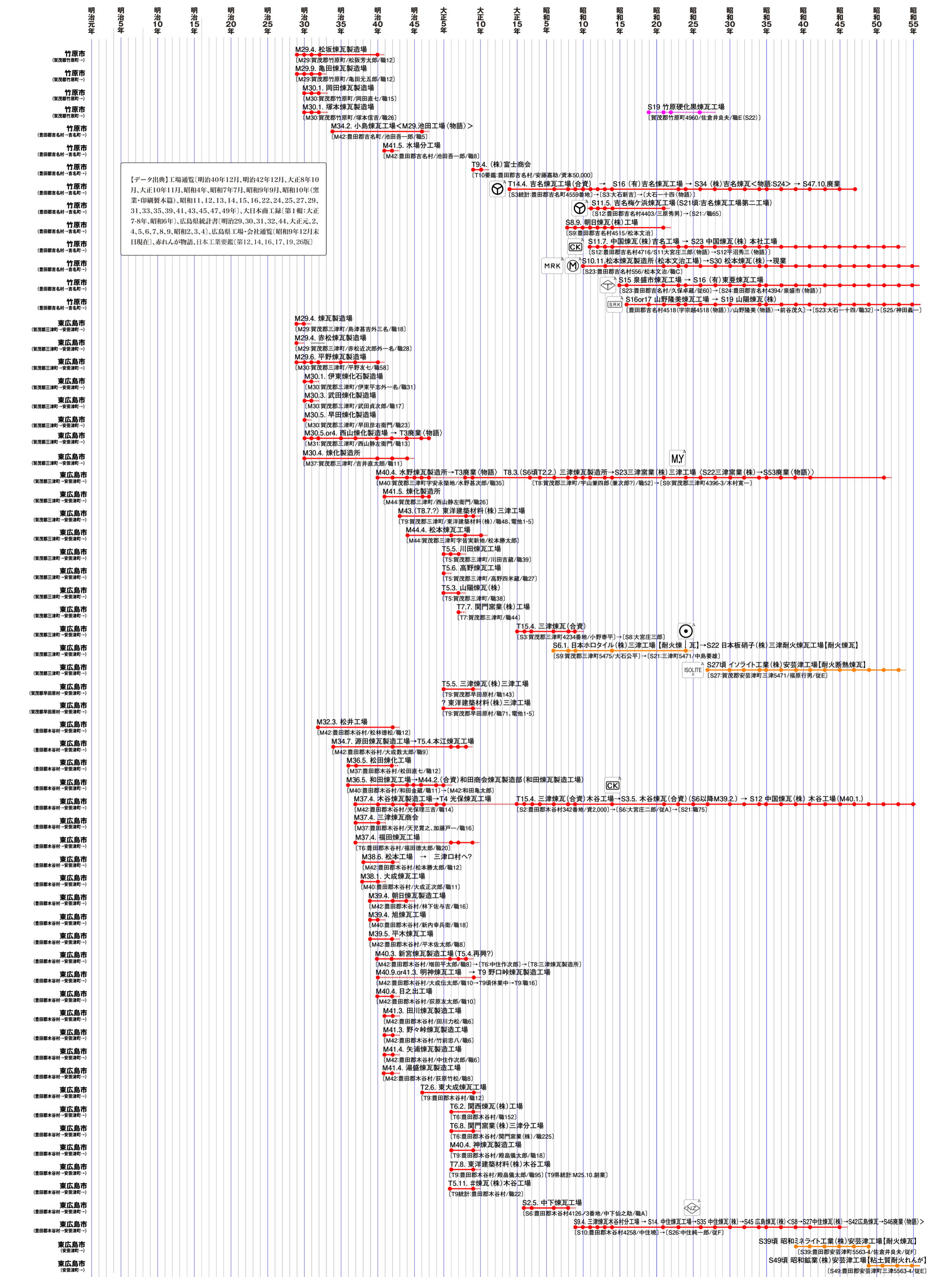
Ⓞ三石耐火煉瓦製造所(太田耐火煉瓦(株))



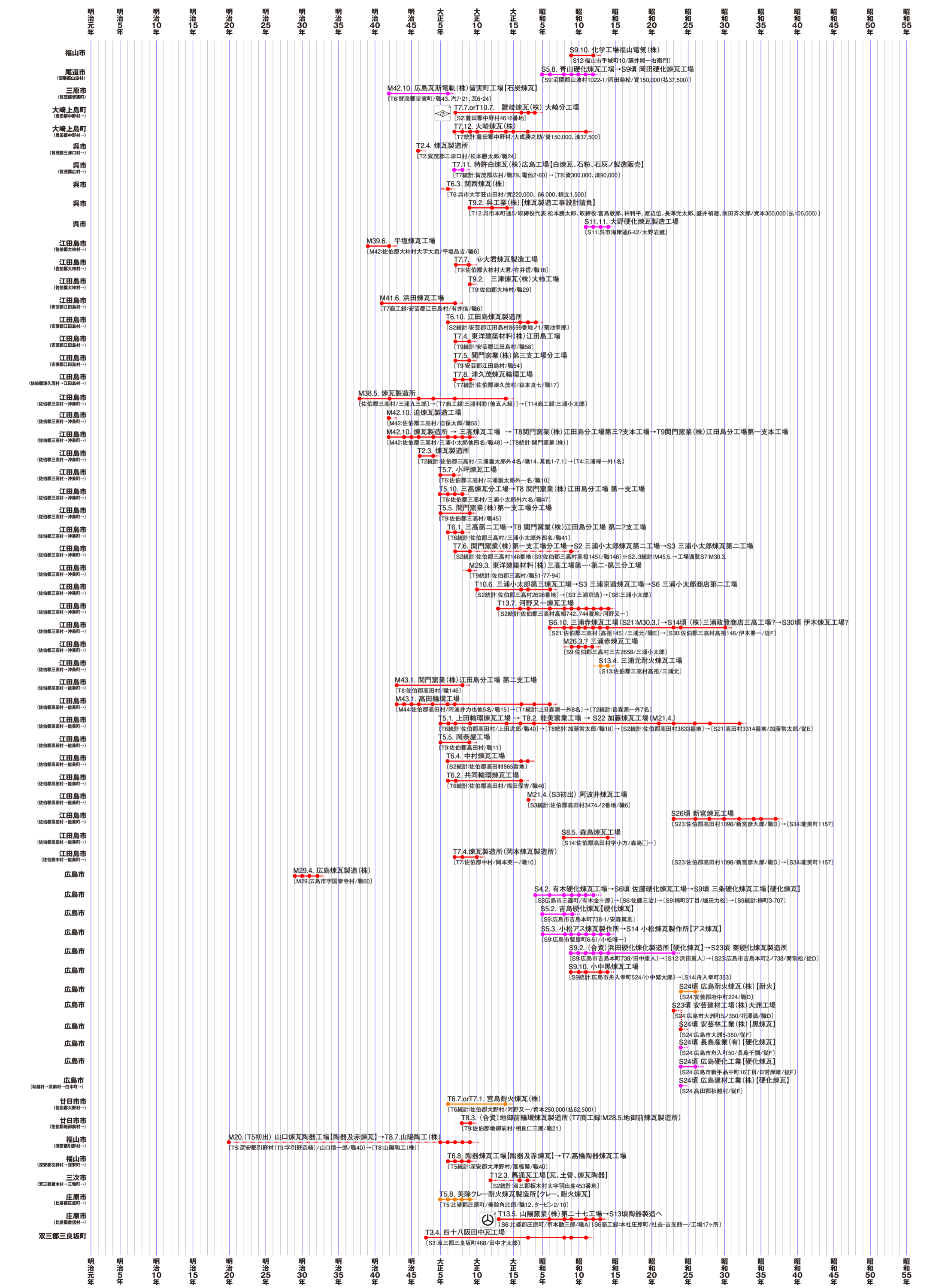
A:和気郡三石町三石85
 B:大正5年(1916)4月→昭和3年(1928)頃株式会社化→昭和21頃以降高木耐火煉瓦(合資)
 D:兵庫県西宮市民家壁
 G:社章
 H:大正8年『工場通覧』に丸太マークを掲載。同型の印のある耐火煉瓦が西宮市で検出されている。この煉瓦には左書きで「三石」と添えられている。



岡山県下煉瓦工場の消長(2)

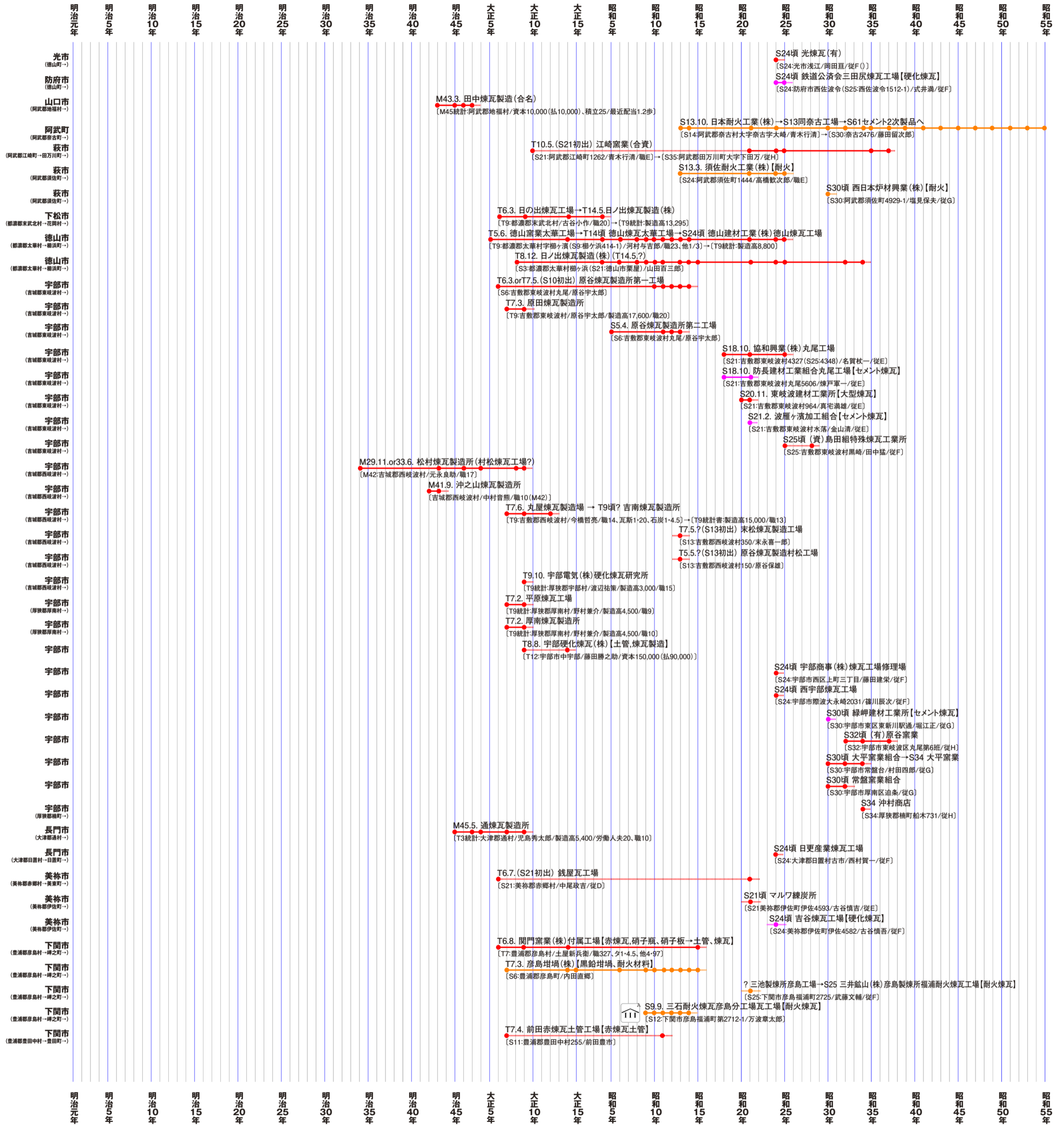


広島県下煉瓦工場の消長(1)

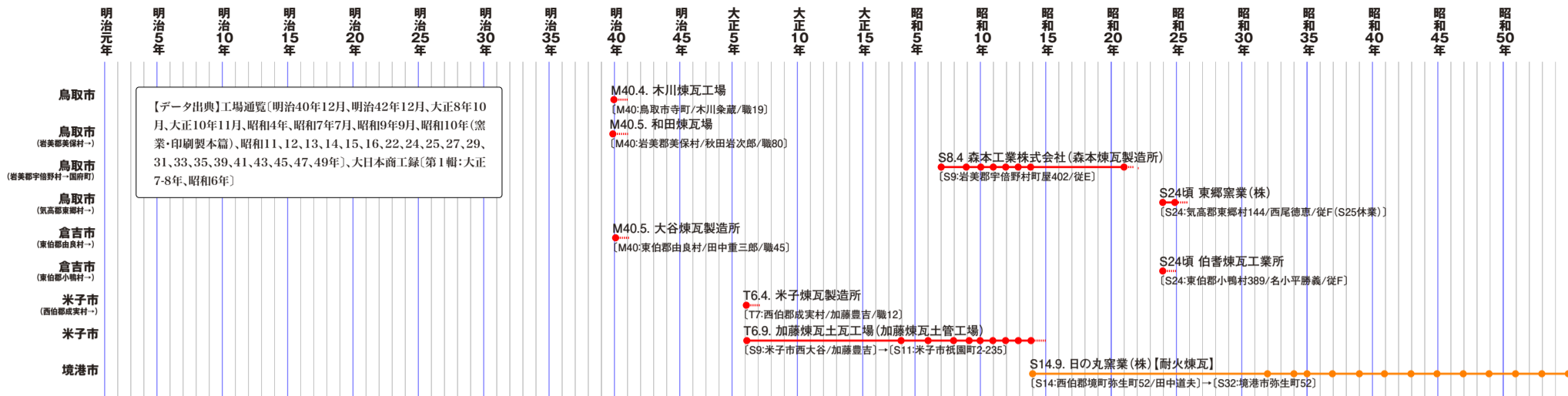


広島県下煉瓦工場の消長(2)

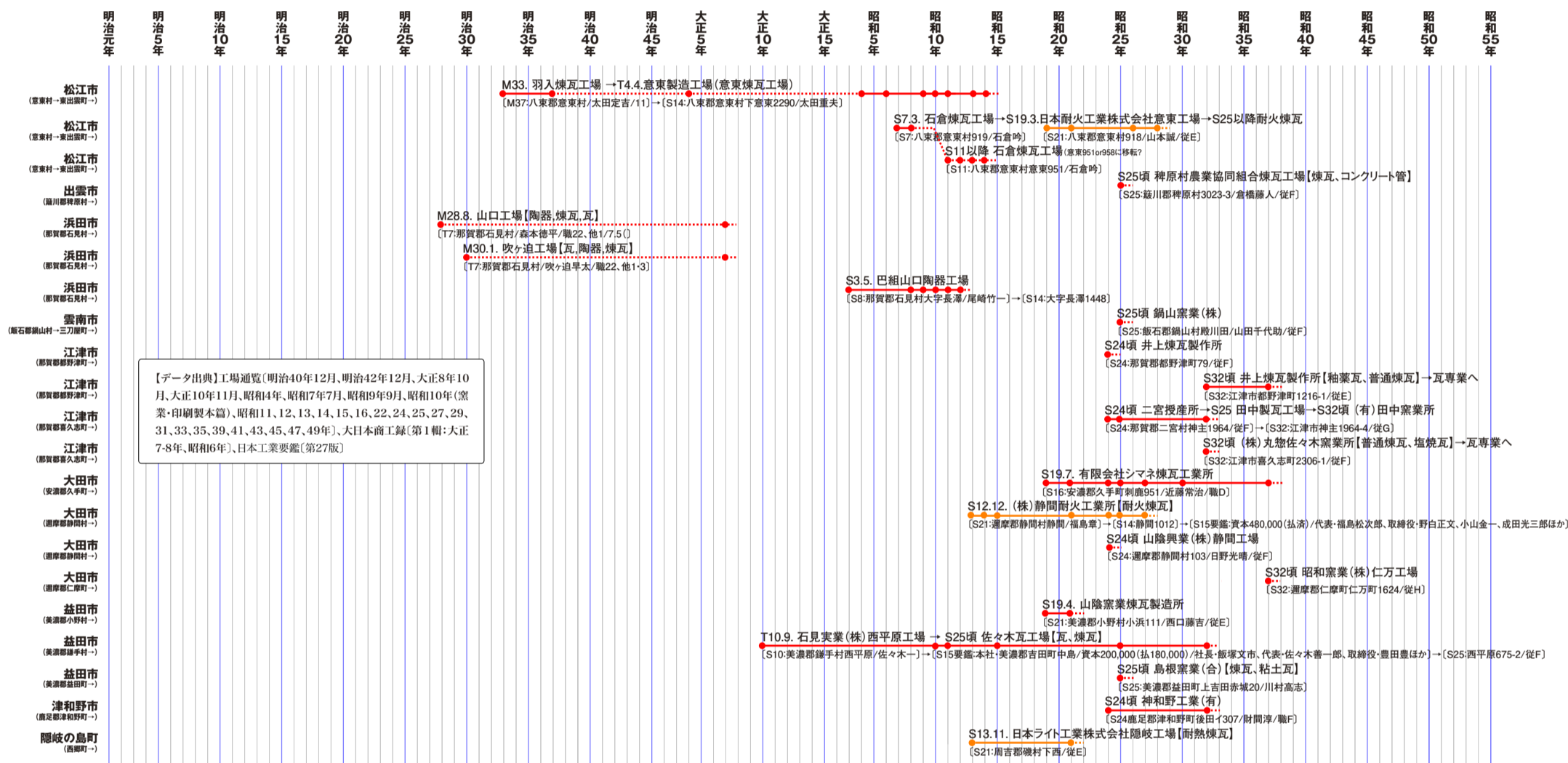
【データ出典】工場通覧(明治40年12月、明治42年12月、大正8年10月、大正10年11月、昭和4年、昭和7年7月、昭和9年9月、昭和10年(窯業・印刷製本編)、昭和11、12、13、14、15、16、22、24、25、27、29、31、33、35、39、41、43、45、47、49年)、山口県統計書(明治45/大正1、大正2、3、4、9)、大日本商工録(第1輯:大正7-8年、昭和6年)、日本工業要鑑(第2、14、16、17、19、27版)



山口県下煉瓦工場の消長(1)



鳥取県下煉瓦工場の消長



島根県下煉瓦工場の消長